

## 臨床検査技師が病院経営に携わることの有用性について

◎濱田 智博<sup>1)</sup>、手嶋 充善<sup>1)</sup>、内田 一豊<sup>1)</sup>  
豊橋市民病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当院では2012年にDPCⅢ群、2016年からDPCⅡ群病院に指定されている。2015年に病院の安定経営の継続とDPC群の指定維持を目的に経営企画室が新設された。当初のメンバーは事務員で構成され、DPCデータに関する分析等を行い、対応策を検討し臨床に提案していた。2020年からは医師、看護師、コ・メディカルも参加する形で各々の現場や、職種横断的な提案による業務改善が期待されている。臨床検査技師として病院経営に携わる有用性について報告する。

【方法】経営企画室の構成員は医師2名、看護師、臨床検査技師、薬剤師、放射線技師、理学療法士、管理栄養士、臨床工学技士、事務員4名の計13名で構成されている。活動内容は勉強会と定例会を月に1回ずつ開催している。診療報酬ルールやDPCⅡ群の要件等の内容で勉強会を開催しメンバー間での情報共有をしている。定例会では臨床科ごとにDPCデータについての分析を行い、職種ごとに課題や問題点を探し、対応策を臨床に提案することや、病院の収益に貢献できる課題を探し提案している。個人の活動は

臨床検査部門の収支分析や、高額医療機器を購入した際の原因償却等の勉強会を検査室で開催し経営意識を少しでも持ってもらえるように努力している。

【結果】臨床検査関連の問題点として、下肢静脈瘤手術での術後評価目的の超音波検査が術後5日目に実施されていた為、術後1日目で下肢静脈超音波検査を実施する様に業務調整した結果、平均在院日数を5日から2日に短縮することができDPC入院期間Ⅱ以内の退院率向上に貢献できた。病棟でのポータブル心臓超音波検査の算定漏れを指摘し、適切な診療報酬請求ができた為、診療密度の向上につながった。そして令和4年度から新設された報告書管理体制加算を提案し、施設基準を満たした為、今年度から算定予定である。検査室で実施した勉強会でも反響があり経営について個人の意識が変わってきていると実感している。

【まとめ】臨床検査技師の専門性を活かすことで病院の収益に貢献できた為、病院経営に携わることは有用であると思われた。 連絡先 0532-33-6111(内線 2229)